

平成30年7月1日から「長久手市みんなで作るまち条例」が施行され、それを記念して、7月20日に文化の家で施行記念シンポジウムを開催しました。条例策定に携わった市民が、企画やパネルディスカッションの進行を担いました。



市では、平成28年度から2年間かけて条例をつくる作業として、条例に盛り込みたい内容を考えるために集まった市民と市職員の対話を重ねてきました。その過程の中で、まちへの想いと理想とする長久手の人やまちの姿を詩にまとめ、まちうた（詩）「さかそう ながくて じちのはな」ができ、シンポジウム当日、ラップ調の曲調に乗せた楽曲が、初披露されました。

シンポジウムでの市長あいさつを紹介します。

将来の市民のために

今日のシンポジウムは、条例策定に携わってきたメンバーの手作りです。

また、先ほどラップ調のまちうた（詩）「さかそう ながくて じちのはな」を聞いてもらいましたが、まちづくりへの市民の想いが詰まった素晴らしいうた（詩）だと思います。今後、市ホームページからも聞くことができるようになります。市役所では、夕方の掃除の時間に流れます。

昨日、東京へ出張した際、地域活性化センター理事長や、本市も加入する「幸せリーグ～住民の幸福実感向上を目指す基礎自治体連合～」の事務局を務める荒川区長に会い、このうた（詩）をお見せし、聞いていただきました。「素晴らしい」ということで、本日、急遽、公益財団法人荒川区自治総合研究所の副所長がわざわざ東京からお越しくださいました。

これまで日本は、人口も経済も右肩上がりに成長し続けてきました。成長するためには、分業化し、専門化して、縦割りで、目標に向かって一目散に走ることが求められてきました。人口が減り、経済も縮小する今の世の中では、縦割りではなく、手を取り合って、包括的に物事を進めていくことが求められていきます。

まちうた（詩）「さかそう ながくて じちのはな」の中で、次のような歌詞が出てきます（一部抜粋）。

いろいろな人のいるまちは 聞く耳もつこと大切に
あの人この人さまざまな 考え まずは認め合う

今ある暮らしを もっと良く キラキラ光る長久手を
今の市民がつくるため 明日の市民に渡すため…

人の話を聞こう。多様性を認めよう。

今の市民のためだけでなく、将来の市民、子や孫のためのまちづくりをしよう。

と言っています。

もうこれは、「長久手市みんなで作るまち条例」のためだけではなく、長久手市におけるまちづくりの基本だと思っています。

みんなで話し合うとき、計画をつくるとき、次世代にどんな長久手を残そうかみんなで考えるときの原点、理念になります。

まずじっくりと詞を読んでから、ぜひ、聞いてみてください。

※このQRコードから聞くことができます。

（ダウンロードには、通信料がかかります。）



市民の想いが 込められた

まちうた(詩)「さかそう ながくて じちのはな」

ボクの家(うち) 長久手に住んで 12年
じいちゃん ばあちゃん 愛犬は 生まれも育ちも わがまちだ
そんな わが家の団欒(だんらん)で 大切なこと 考えた

じいちゃんの こんな自慢で始まった わしらのまちの 長久手は
戦国の世からの 伝統と 清き流れの 香流川
緑豊かな 里山と リニモが結ぶ 街並みや
万博の知恵と理想が 誇りだな

ところが ばあちゃん嘆くのは
近頃 この頃 長久手は 隣が誰だか 判らんと
気にしない人 多すぎて 関わり合いが 薄すぎじゃ
やがてくる世の 高齢化 このまま ほかっておけんのじゃ
防犯 防災 だいじょうぶか？

そこで とうさん 高らかに このまま行けば 長久手は
子らに伝える 輝きを 失ってしまうまち になる
ひとり一人が 主人公 懐の深い コミュニティ
それぞれの価値を 認め合い 支え合うこと 目指すべし

さらに かあさん訴えて みんなの居場所を つくるには
わずらわしいこと 多いけど
会話・対話を 繰り返す 回り道でも いいじゃない？
やってみることこそ 大切に 失敗したって いいじゃない！

ねえちゃんとボクが 願うのは いつまでも続く 青空と
緑と命が 守られる 住んで 遊んで 働きたい
心豊かな ふれあいには まずは あいさつ 「こんにちは！」

でもボクの ともだちは
言っていることは 分かるけど 理想ばかりで マジ出来る？
いやがる人も いるだろう

家族が 近所が 動き出す
いろいろな人の いるまちは 聞く耳もつこと 大切に
あの人 この人 さまざまに 考え まずは認め合う
熱い決意を 胸に秘め 長久手人（ながくてびと）は 立ち上がる

みんなが知り合い 混ざり合い 関わり合って 支えあう
やさしいことでは ないけれど
言ったコトバと 行動に 責任をもって 取り組もう

自分がまちに 出来ること 最初の一歩を 踏み出そう
今ある暮らしを もっと良く キラキラ光る 長久手を
今日の市民が つくるため 明日の市民に 渡すため・・・

《登場人物》

父親（47歳） 母親（44歳） 姉（19歳） ボク（14歳）

じいちゃん（72歳） ばあちゃん（69歳）の6人家族。長久手市在住。